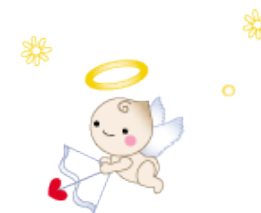




知っていますか？子宮頸癌ワクチン

医師 向原 千夏



寒い日が続きますが、みなさまお元気でお過ごしでしょうか。今年度から水曜日の午前中の外来を担当している向原千夏です。新型コロナウイルスの影響で今までのようにお出かけができず、大切な人とも会えず、気持ちが落ち込んでしまっている方もおられるかもしれません。身体だけでなく心の健康も大切です。心の面でも何か困っていることがあれば、私たちにご相談くださいね。



さて今回はワクチンのお話です。今話題のワクチンは新型コロナかもしれませんが、もう一つ話題のワクチンがあります。それが子宮頸癌(しきゅうけいがん)ワクチンです。子宮頸癌はヒトパピローマウイルスが原因で発症することがわかっており、なんとワクチンで発症予防ができてしまうのです。とても優れたワクチンで、このワクチンの接種が進めば、子宮頸癌は撲滅できるとさえ言われています。WHO(世界保健機関)も推奨しており、世界の多くの国で接種されています。

しかし日本ではこのワクチンによる副作用の心配が大きく報道され、国民への情報提供がなされなくなりました。当時のニュースを覚えていて怖いイメージを持っている方もいらっしゃるかもしれませんが、その後ワクチンについての研究が進み、当時報道された症状とワクチンについての因果関係は証明されず、安全なワクチンであることがわかりました。しか



しこの一連の出来事がきっかけで、日本で子宮頸癌ワクチンを接種する人はごく少数になってしまいました。このままでは日本で子宮頸癌になる人がどんどん増えてしまうと言われています。

子宮頸癌は若い女性が死に至る可能性があることはもちろん、手術で子宮を取ってしまうことになれば妊娠できなくなり、女性の人生に大きな影響を与えてしまいます。予防可能であるにも関わらず、ワクチン接種がなされないことで、この病気が広まってしまうことは残念でなりません。



子宮頸癌ワクチンは小学校 6 年生～高校 1 年生の女子は公費で無料接種することができます。この期間を逃してしまうと自費になってしまいますが、45 歳までの女性には接種が推奨されています。また男性にも肛門癌や中咽頭癌などに予防効果があり、最近日本でも接種が承認されました。これを読んでいる方はぜひ周りの方にお知らせください。そして接種するかどうかに悩まれることもあると思うので、ぜひクリニックに相談に来てください。相談だけの来院も大歓迎です！





糖尿病の合併症

看護師 宮井 由里子

合併症とは、ある病気に伴って起こる病気のことです。

合併症を防ぐには早期発見が大切です。

糖尿病の合併症として分類は色々ありますが、その中の1つをお話しします。小さい血管の合併症を私たちは「しめじ」と覚えています。



「し」は神経症の合併症です。特に両足の裏にしびれ・痛みを感じないなどの症状があります。靴の中に石ころなどが入っていても気付かず、傷になって初めてわかり、その傷は治るのに時間がかかります。

「め」は眼です。糖尿病の患者さんに、去年は眼科に行かれたか？とお聞きしています。糖尿病には特有な網膜症があります。症状が出てからでは遅く、定期的な眼底の検査が必要です。「年に1回の健診でみてもらっている」と言う方が数名いらっしゃって、私はそれでいいかなと疑問を持ちながら仕事をしていました。調べてみると、健診での眼底検査は眼の中の神経の周りだけの観察です。細かい血管まで詳しくははっきりと検査してもらうにはやはり眼科の受診が必要です。



「じ」は腎臓障害です。腎臓の中には糸球体といって、ぐるぐるに巻いた毛糸のような血管の球がたくさんあります。その細かな血管がもろくなると、腎臓の機能が低下し尿にタンパクが漏れ出すようになって網の目が破れたり、詰まったり、ろ過されず老廃物がたまってきます。

合併症が発症する順番も一般的には「し」→「め」→「じ」の順番とされています。

眼科はいったことないなー、途切れてるなー、という方はぜひ眼科へ行きましょう。先生に相談してください。行かれる時は「糖尿病連携手帳」を持って行ってくださいね。



～お知らせ～

医師の不在のお知らせ

【外来医師の不在】

「2月」

- ・1～5日・22日(土) 西川医師
- ・20日(土) 中村医師
- ・20日(土)・22日(月) 大竹医師

「3月」

- ・13日(土)・19日(金) 大竹医師



風除室に検温カメラを設置しています

クリニック入り口に検温カメラを設置いたしました。来院されたときには検温をお願いいたします。

待合に淡水魚がやってきました！

すこしでも待合で和んでいただけたらうれしく思います(^-^)

